



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2007/11/22(木)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 10

平成19年度 第38回全国高校バスケットボール選抜優勝大会北海道予選会

11月9日(金)～11日(日) 北見市

「大会観戦記」

北海道バスケットボール協会 強化普及委員会
指導者育成専門委員会委員 前野和義

インターハイ道予選会から引き続き3年生も含めて強化してきたチーム、補強として3年生に手伝ってもらっているチーム、全く1・2年生に切り替えているチーム、それぞれの思惑で編成されている状況であり、チーム力にかなりの幅があった大会のように感じました。それにしても3年生をここまで指導し、チームの柱として育て上げてきた各指導者の方々は本当に大変だったかと思えます。また選手諸君も6月の支部、全道大会からこの11月まで選手生活を持続してきた努力を大いに賞賛します。

今回は指導者育成委員という立場で、各試合において感じたことを皆さんと共に勉強できたらと思っております。また自チームの試合もあり会場も分散したことで限られたゲームの観戦感想になりました事ご容赦願います。

【男子準々決勝 恵庭南高校 VS 旭川西高校】

恵庭南高校(以下:恵南)は夏のインターハイ北海道予選で旭川西高校(以下:旭西)に惜敗しており、今回は雪辱に燃えどんなゲーム展開になるか、特に恵南のセンター林田君がようやく怪我から復帰してのゲームであった事も興味深いものであった。

恵南は速いゲーム展開で望み、シュートを数で打つものに対して、旭西はじっくり攻めて、質で打ち、爆発力はないが安定したゲーム運びをしていた。恵南は単調な攻めであるが、オフェンスリバウンドをよく頑張り点につないでいたが、ファールトラブルでどうしてもリズムをつかめない。2クォーター残り7分で9点旭西がリードされたところで日下部コーチはタイムアウトを取らなかった。本来なら取るべき所であるが、我慢して選手に任せたようだ。結果的にはガード稲垣、センター石原の3年生がしっかりした冷静なゲーム運びで、前半残り4分で同点に持ち込み、逆にリードを奪いその後は旭西ペースで展開される。恵南としても追いつきの4クォーター残り7分、ノーマークレイアップシュートを外したのが旭西としても命拾いであった。センター石原のオフェンスの幅が広がりミドルシュートも良いタイミングで入れる。また稲垣のゲーム管理、1年ながらの佐々木の確率の高い見事な3P、2年生の頑張り、確実に旭西はタイムアウト1回残しての勝利であった。メンバーチェンジも無く5人での戦い、日下部コーチ会心のゲームであった。恵南も近藤一人抑えられ、シューターの駒も居なかったが、最後まで無理なシュートを打ちすぎってしまった。恵南は夏よりリバウンドそのものは強くなったが、外から中、中から外のディフェンスを揺さぶることが無いままに終わってしまった感がある。

※ コーチは審判の能力にいち早く対応させることも大きな戦術であり、恵南は第1クォーター以後も審判の判定に引きずられ、対応できなかった事も敗因の大きな要素になった。

しかし、審判の状況は最悪の一言。瞬間的に見た場面の視野で笛をならしゲームの流を切る。影響の無い接触を取り上げ、シュートに関わる大事なところはやらせ放題で、最後まで整理出来ない状態のまま試合終了。また24秒オーバータイムを見逃し、旭西の3Pを得点にしてしまった事も恵南の不幸な出来事。オフィシャルが時間を止めて審判との確認をしてもらいたい事例であった。審判への不信感が選手の表情に多く表れたゲームであり後味の悪さが残る。審判は大いに反省してもらいたい。

【女子準決勝 札幌創成高校 VS 旭川藤女子高校】

旭川藤女子高校(以下:藤)は1・2年生チームながら、2回戦札幌北星学園女子高校を破り、第3シードの函大付属柏陵高校に快勝してのベスト4進出は大変立派である。

しかし、藤に対する札幌創成高校(以下:創成)のゲームの入り方は大変集中しており、創成の早い展開に藤のリズムが作れず、創成の3年生2名が安定した力を発揮して、新チームの藤を攻守共に圧倒した。

藤は完全に負けゲームの展開ということで、沢山のメンバーを投入したが、多くのメンバーを使うことによって、次からのチームの練習の意欲を高める効果はあるが、主力を中心に使い、次の大会のために多くの経験をさせる方法の方が強化につながると今回は思った。タイムアウトの取り方もどうしても、完全に負けゲームでは遅くなる傾向になり、選手には益々ゲームをあきらめる雰囲気が出てくると思う。負けゲームでタイムアウトを残すことは無いと思う。藤も新人大会に向け大変楽しみなチームで、一回り大きなプレーをするための体作りと、プレーの役割を明確にすることによって、ミスを少なくし、シュートの作りをもう一工夫してもらいたい。

【男子準決勝 大麻高校 VS 旭川工業高校】

大麻高校(以下:大麻)はシャッフル系のモーションオフェンスで良くボールが回り、良いタイミングでシュートを打つものに対して、旭川工業高校(以下:旭工)は1on1のドライブからの合わせでシュートを打つ攻撃である。大麻の⑦濱田の186cmに対して旭工は167cmの④遠藤がつかざるを得なく、その mismatch を大いに利用される。2クォーターで大麻が追い上げ速い展開に持ち込まれ、旭工も⑤西尾が雑なシュートを打ち始め崩れる。⑥松本⑩吹上のシュートで何とか一桁で着いていくが、後半大麻④荒井を外に出し1on1を仕掛け事が成功する。4クォーター残り5分15点を追いつけるのに3回目のタイムアウトを取り、プレスに転じ9点差まで追いつけるがそこまでであった。旭工はゲームの駆け引きに乏しく、ゲームメンバーの伸張の差が10cmはある。あらゆる能力に劣るチームが勝つためにはもっと脚力を作り、オールコートでのディフェンスで相手のボール運びを止め、しっかりゲームを作り、相手の急所の狙い所を定めて勝負する事が必要である。慎重さに欠ける場面が沢山あったことが残念である。しかし、大麻のターンオーバーが旭工7に対して、17個と相当多く、オフェンスリバウンドが大麻12に対して旭工21と頑張ったことがある程度ゲームについていけた事かと思う。『床に近いプレーで負けるな!』を合言葉に頑張ったようだ。大麻の一生懸命に最後まで真剣にプレーをしてくれた選手とコーチに感謝した。

【女子決勝 札幌山の手高校 VS 札幌創成高校】

今年の札幌山の手高(以下:山の手)は決して傑出するような選手がいなくても、逆にチームとしての強さと頑張りを感じた。ディフェンスの努力からオフェンスにつながるケースが多くみられ、例年のチームに比べ運動量の多さも目立ち、オフェンスの点の取り方も

分散され大型センターがない事が逆に良い結果に結びついているようだ。しかし全国での戦いは相当苦労させられるだろうが大いに注目したいと思う。

女子決勝は残念ながら、創成の戦う気迫が出てこない状況で終了する。試合に負けてもどこかの部分で勝つことをコーチは選手に要求し、決勝戦としての盛り上げをするような仕事をコーチにはして欲しかった。新人大会での奮起を期待したい。

【男子決勝戦 大麻高校 VS 東海大附属第四高校】

意地と意地とのぶつかり合いで、大変見応えのあるゲームであり、両チームの監督さん素晴らしい戦いであり、本当にご苦労さん。

東海大附属第四高校(以下：東海)のこの決勝戦にかける気迫がディフェンスに現れていた。外のシュートをしっかり封じ込め、リバウンドをしっかりとキープし、試合そのものの主導権をとって第1クォーターを終了する。2クォーターで大麻⑥福田の3連続ゴールは圧巻であった。彼の技術力はさるものながら、この試合にかけるモチベーションの高さを感じた。

前半の見所は、大麻が一時20点のビハインドを追いかけるために、2クォーターに2-3ゾーンディフェンスを仕掛け、そのクォーター残り1分でマンツーマンに切り替えたことである。その切り替えも絶妙だったと思う。結果的に10点差まで縮めることができた。次のディフェンスを生かすために一時的にゾーンディフェンスを利用する戦術は私も使う事があるが、20点差という状況だからこそ、思い切れた事だったかと思う。

東海が3クォーターで又も突き放したところで、④村田がファールトラブルで下がったこと、そして不運なことに、よくシュートが当たっていた⑩野原を怪我でベンチに下げざるを得なかったことがとても悔やまれる結果になった。

大麻は思い切って④荒井を外に出してシュートを打たせ、また彼も3P2本を良く決めたものだ。夏のインターハイでは見られなかった彼の成長ぶりであった。

そして、ゲーム終了残り4.2秒東海ボール(フロントコートサイドスローイン)大麻81:80東海、大麻タイムアウト(2回目)引き続き東海(3回目)タイムアウト、東海はボックス型でスローインオフェンスを展開するが、大麻はスイッチディフェンスでスローインを入れさせず、苦しい状態でパスをするが、スローアーディフェンスの足に当たりそのままボールアウト。再度東海スローイン、大麻はチームファールがまだ3個であり、ファールでしのげる状況にあったが、結果的に東海にタイムアウトがここでもう一回あればと思う局面であった。結局サイドスローインの形は同じ動きで完全に大麻に読まれてしまい、5秒オーバータイムぎりぎりのパスで、大麻はファール覚悟のインターセプト(ノーホイッスル)、そのボールを追いかけた東海もファールディフェンス(ノーホイッスル)であったがゲームセット。出来れば延長戦で再度仕切り直しをしてもらいたかった好ゲームであった。東海が良く守り良く打ち、99%の勝ちゲームを落とした悔しさは大きいと思うが、素晴らしいファイトを賛美したい。また大麻は最後まで崩れないであきらめないプレーの姿勢は大変評価できる。荒井、福田の好ファイトに拍手を送りたい。

※ 東海の残り4秒のサイドスローインに関して

ボックス型のスローインオフェンスは、基本的にはサイドの場合はサイドラインに並行に動いてスクリーンを使い、エンドの場合はエンドラインに並行に動いてのスクリーンが基本とされるが、東海のサイドスローインはディフェンスのしやすい形を使ってしまった。スローインファールを取り上げていれば、今度はエンドからのスローインになり、また違ったドラマがあったかも……。

● 新人で参加したチームに一言感想を

釧路北陽高校男子は大変バランスの取れたチームで、今回はエースフォワードが欠けていたにもかかわらず、良いゲームをしていた。どこからでも点が取れる強みがあり今後は

ゲームの駆け引きを覚え、ゲームの持久力が付くと凄いチームになると思う。

北広島高校は、2年生が見学旅行を返上しての今大会参加だそうで、その意気込みが随所に現れた試合であった。試合運びが一本調子なので、札幌の上位高校とはまた違ったバスケットボールを表現して戦ってみてはと思う。

駒大苫小牧は年々チーム力が上がり選手の層も厚くなってきたようだ。長身選手のいない所をチーム力としてどうカバーし、これからどんな色着けをしていくのか、若い田島コーチの手腕が楽しみ。

全国出場を手にした大麻高校、山の手高校はもうひと頑張りですね。全国での活躍を心より祈っております。

北海道の高校の課題は、高さに勝るディフェンス力を付けることです。オフェンスは十分通用していると思います。特に男子は外国人留学生の高さと戦う現状で、もっともっとディフェンスにパワーをつけていかななくてはなりません。その事を十分に考えてディフェンスを育ててもらいたいと思います。また、審判の皆様にもその点を理解され認識して、高校バスケットボールを育てていただきたい。

今度は、1月31日から行われる全道新人大会が旭川で開催されます。新チームとして素晴らしいチームを見せていただきたいと思っております。(完)

HBA（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会